

(6) 5歳児

5歳児 活動事例1

砂や水で遊ぼう(7月)

観点(人とのかかわり) 視点(自己発揮 ~みて、きいて~)

【遊びの経過】

暑くなり、水をたっぷり使った砂遊びに、シャボン玉や水鉄砲、石鹸遊びも加わり、遊びが広がってきた。自信がなく、自分の思いを伝えきれない様子が見られたが、みんなで一つの遊びに取り組むことで、自分なりのめあてをもって徐々に思いを伝えながら遊べるようになってきた。

【ねらい】

砂や水を使ったダイナミックな遊びを通して、自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の思いを受け入れたりして、自分の力を出し切って遊ぶ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★スコップ、バケツ、ペットボトル、ペットボトルをつないで作ったといなどを用意しておく。

○はじめは数人のグループでそれぞれ砂山作りなどを始める。

○といを砂山につなげ、どんどん水を入れる。

そうめん流しみたいだな。【発見】【気付き】

ぼくも入れて。【興味・関心】

面白そう。もっと流そう。【共感】

どんどんたまって、温泉みたいだな。もっと入れよう。【夢中】

わあ。たまった。たまった。【満足感】

○砂山の間の水たまりを発見し、温泉作りを始める。

砂山が合体した。もっと水を入れよう。【感動】【意欲】

ここに水を入れて、大きな温泉にしよう。【提案】【共通の目的】

これくらいの水でいいかな。【思考】【人とのかかわり】

うん、いいよ。【共感】

もう少しで流れるよ。【夢中】

○楽しかった遊びを友達と振り返りながら片付けをする。

温泉になって楽しかった。【満足感】

みんなが来てくれてうれしかった。【達成感】

明日も続きをしようね。【期待感】

- どうしたら大きな山になるか、自分の思いを伝え、相談して遊ぶ様子を見守る。
- 山がだんだん高くなったり、水がたくさんたまったりする様子をみんなで見て喜ぶことで、自分なりの力を発揮して遊ぶと、遊びがより面白くなることを実感する。

- 自分の思いを伝えようとする姿や、相手の思いを受け入れようとする姿を認め、思いを伝え合う心地よさを感じられるようにする。
- 自分の思いや考えを言えない子どもの話を聞き、その思いに寄り添い、伝え方を知らせたり励ましたりする。
- それぞれの遊びをしていた子どもたちが、一つの目的をもって友達と一緒に遊ぶなかでの気付きや発見、感動をしている姿に共感する。

- グループ同士でかかわりを広げ、自分の力を発揮して遊んだことを実感できるように、遊びを振り返り、満足感や達成感を高める。
- 片付けをしながら、子どもたちの気持ちを受け止め、明日の活動への期待となるような言葉をかける。

【評価】

・友達と思いを伝え合いながら、自分の力を発揮して一緒に遊びを進めている。

5歳児 活動事例2

われにくいシャボン玉を作ろう（8月）

観点（興味・関心）

視点（探究心 ～どうしてかな～）

【遊びの経過】

色水遊びやシャボン玉作りを楽しみ、水や泡に興味をもった。石鹼でシャボン玉液を作るがすぐに割れてしまい、なかなか膨らまなかった。「他にも入れてみよう。」という子どもの声から、どんなものを混ぜるか友達や保育者と話し合った。

【ねらい】

さまざまな材料を使い、量を調節しながら、シャボン玉が作れるように試したり考えたりして遊ぶ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★石鹼水、レモン水、塩水、砂糖水、のりを溶かした水、スプーン、カップなどいろいろ試すことができるような材料や用具を用意する。
- ★何度も試せるように、考えたり再挑戦したりできる時間を保障する。



○石鹼水にいろいろな液を混ぜていき、シャボン玉ができるか試す。



全部入れてみよう。【興味・関心】【意欲】

すぐに割れちゃったよ。【発見】

もう1回やってみよう。【挑戦】
【意欲】【探究心】

- シャボン玉液の作り方や用具の使い方が分かりやすいように、実際に子どもたちの前で説明しながら作る。
- 子どもたちが自分で混ぜる液を選んだり、量を考えたりして、工夫できるように声をかけていく。
- 何度も試している姿を認め、その結果を友達と共有できるように仲立ちとなる。

○割れにくいシャボン玉の液作りに挑戦する。



レモン水を入れるとシャボン玉ができないよ。なんでだろう。【疑問】
【思考】【探究心】

レモン水は入れない方がいいね。【発見】

- 子どもたちの気付きや発見を、しっかり認めたり共感したりして、自信につなげる。
- 思うようにいかず困っている子どもには、まわりの友達に目を向けられるように声かけをし、自分でやってみようとする気持ちを高める。

やった。割れにくいシャボン玉ができたよ。【発見】【喜び】【満足感】

すごい。何を入れたの。どのくらい入れたの。
【疑問】【探究心】【認め合い】



スプーンに1杯ずつだよ。【提案】

やってみよう。【意欲】

ありがとう。ぼくも割れないのができたよ。【喜び】【感謝】

【評価】

- ・さまざまな材料のなかから混ぜるものを選んだり、組み合わせを変えたり、量を調節したりしながら、割れにくいシャボン玉を作るよう、何度も試して遊んでいる。

5歳児 活動事例3

宝とりゲームをしよう（11月）

観点（人とのかかわり） 視点（協同性 〜いっしょにやろうよ〜）

【遊びの経過】

運動会後も、リレーやジャンケン遊びなどチームに分かれた遊びを繰り返し経験してきた。そのなかで、勝ち負けにこだわる姿や自分の思いを通そうとする姿が見られた。遊びの後に、みんなで話し合う機会をもつことで、自分とは違う友達の思いにも気付くようになり、折り合いをつけようとする姿につながってきた。

【ねらい】

友達と自分の思いを伝え合い、相談しながら宝とりゲームを楽しむ。

○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助

★自分たちで遊びの準備ができるよう、必要な用具を安全な場所に並べて置く。

○宝とりゲームをする。

助けにきたよ。
【人とのかかわり】
【仲間意識】

ありがとう。今度は捕まらないようにしましょう。
【喜び】【意欲】



助けたいなあ。でも鬼に捕まるかも。【葛藤】

こっちにも助けに来てほしいな。
【期待】

捕まえたので、逃げられないようにしましょう。【意欲】

- 昨日までの遊びの楽しかったことを思い出し、今日の遊びに期待がもてるようにする。
- 友達と思いを伝え合いながら遊ぶ楽しさが感じられるよう、宝をとり、喜び合う姿や助け合う姿を認める。

○作戦タイムで、どうしたら捕まらないで宝がとれるか相談する。

私が先に出るから、誰か反対側から出て。【提案】

もっとたくさん人が出た方がいいかも。【提案】

分かった、それいいね。【共感】

じゃあ、ぼくも出る。【意欲】



- 作戦タイムを設け、友達と役割を決めたり、ルールを作ったりするなど、チーム内の友達と折り合いをつけながら、協力して遊びを進めていく楽しさが感じられるようにする。
- 友達との思いの行き違いや葛藤があった時は、互いの思いや考えを伝え合いながら遊ぶ楽しさが感じられるように、保育者が仲立ちをする。



みんなで力を合わせてがんばるぞ。【協力】

エイエイオー。
【意欲】【一体感】

- チームの友達を応援したり、声をかけ合ったりするなど、協力していた姿や自分の思いを伝え合う姿を認め、やり遂げた満足感を高める。
- 今日の活動を振り返るなかで、友達の思いに気付き、相談して遊んでいた姿をみんなで共有する。

○ゲームを終え、遊びの振り返りの話し合いをする。

【評価】

- ・自分の思いを出し合いながら、どうすれば宝がとれるかなど作戦を立て、友達と協力して遊んでいる。

5歳児 活動事例4

もうすぐ1年生へ体験入学へ（2月）

観点（ 興味・関心 ）

視点（ 意欲 へおもしろそうだなへ ）

【遊びの経過】

友達と話し合い、協力し、自分たちで遊びや生活を進めようとする姿が見られるようになってきた。交流で1年生と触れ合うことを通して、あこがれの気持ちを持ち、就学への関心が高まってきた。

【ねらい】

1年生と一緒に活動するなかで、1年生の言動に触れ、就学への期待を膨らませる。

○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助

- ★安心して過ごせるよう、今までの交流時と同じペアにする。
- ★事前に1年生担任と協議し、互いのねらいを明確にしておく。

○ジャンケン列車をして遊ぶ。



楽しいね。
【共感】

がんばってね。
【応援】

応援、うれしいな。
がんばるよ。【意欲】

- 園で行っている遊びを活動に取り入れることで、緊張をほぐし、意欲的に参加できるようにする。
- 安心して遊びを進めていけるように、1年生とペアになれているか確認する。

○学校クイズで1年生と話し合う。



〇〇があった部屋だよ。
【手がかり】

あの部屋だね。
【気づき】

前に行ったことがあるよ。
【手がかり】

小学校にはいろいろな部屋があるなあ。
【興味・関心】【期待】

1年生ってやさしいな。【あこがれ】

- 1年生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊びを楽しめるように、必要に応じて言葉かけをする。
- 学校の先生や、園にはない部屋などについて知ることができた喜びに共感し、入学への期待を高める。

○歌を歌う。

○1年生の「できるようになったこと」の発表を見て、感想を話す。



計算が速くできてすごかったです。
【気づき】【感動】

1年生になったら、いろんなことができるんだね。【期待】

- 交流の際、いつも優しく接してくれる1年生に、感謝の気持ちを込めて歌うように声をかける。

- あこがれの気持ちをもてるよう、「1年生すごいね。」など子どもたちに声をかけたり、一緒に拍手をしたりして気持ちを盛り上げる。
- 自分の思ったことや感じたことをみんなの前で伝えたことを認め、自信につなげる。

【評価】

- ・楽しんでゲームに参加したり発表したりして、学校生活に興味をもち、就学への期待を膨らませている。